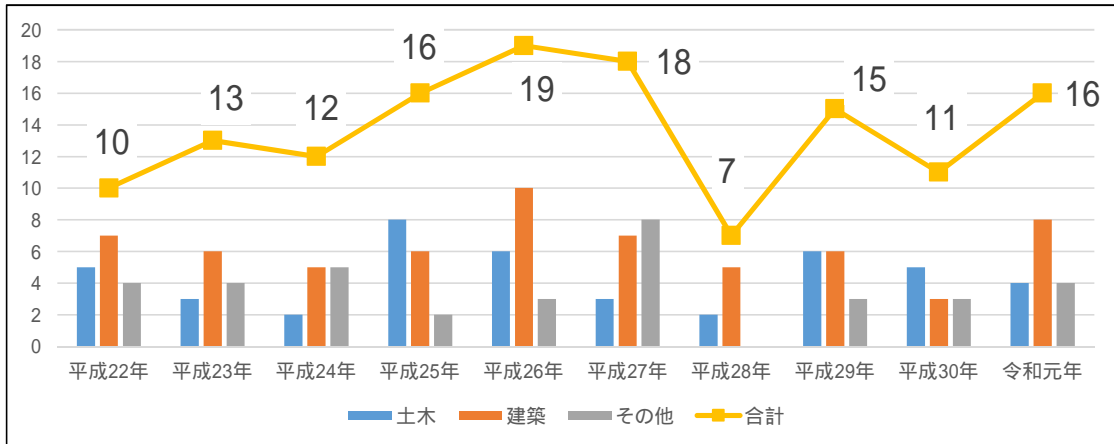


建設業における労働災害の発生状況

愛知労働局

死亡災害の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
土木	5	3	2	8	6	3	2	6	5	4
建築	7	6	5	6	10	7	5	6	3	8
その他	4	4	5	2	3	8	0	3	3	4
合計	10	13	12	16	19	18	7	15	11	16

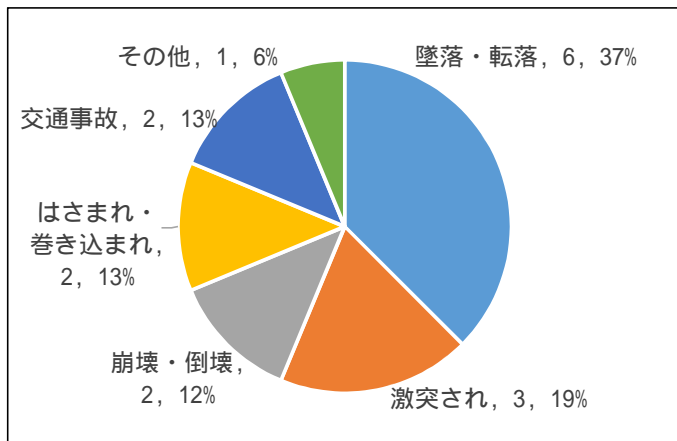


令和元年の死亡災害発生状況

事故の型別

墜落・転落	6
激突され	3
崩壊・倒壊	2
はさまれ・巻き込まれ	2
交通事故	2
その他	1

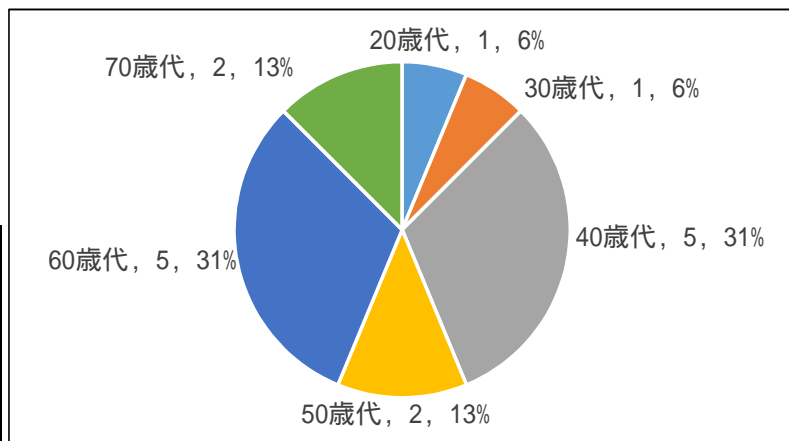
墜落・転落で亡くなった方は6名と全体の1/3強(37%)を占めており、2人の方が屋根を踏み抜いたものであり、2人の方が足場の開口部から墜落している。
また、移動式クレーンや高所作業車、不整地運搬車等が起因して、7人の方が亡くなっている。



年齢別

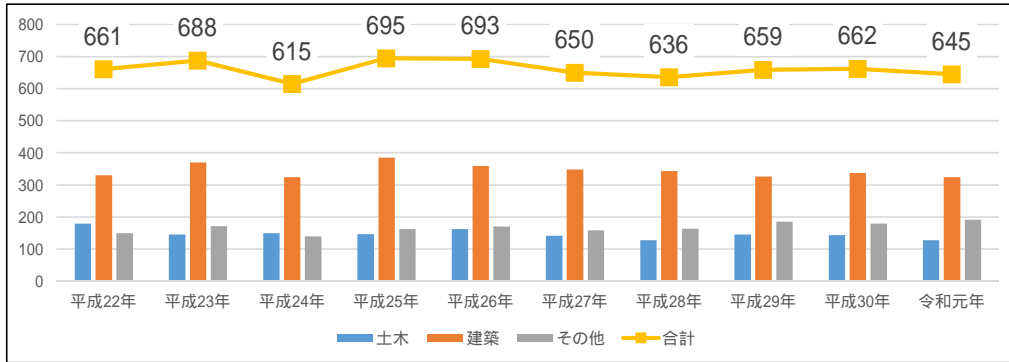
20歳代	1
30歳代	1
40歳代	5
50歳代	2
60歳代	5
70歳代	2

40歳代の方と60歳代の方がそれぞれ5名と年代別では最多となっている。
また、50歳以上の中高年労働者の方が9人、57%を占めており、70歳代の方も2人亡くなっている。



休業4日以上の死傷災害の推移

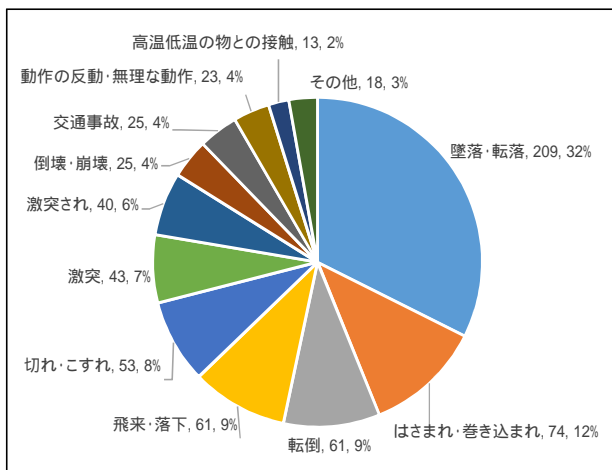
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
土木	180	146	150	147	163	142	128	146	144	128
建築	331	370	325	385	359	349	344	327	338	325
その他	150	172	140	163	171	159	164	186	180	192
合計	661	688	615	695	693	650	636	659	662	645



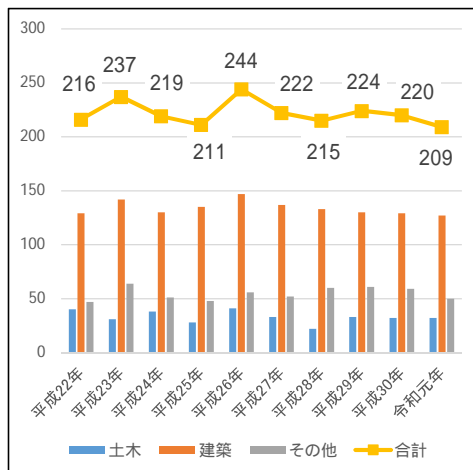
令和元年の休業4日以上の死傷災害発生状況

墜落・転落	はさまれ・巻き込まれ	転倒	飛来・落下	切れ・こすれ	激突	激突され	倒壊・崩壊	交通事故	動作の反動・無理な動作	高温低温の物との接触	その他
209	74	61	61	53	43	40	25	25	23	13	18
32%	11%	9%	9%	8%	7%	6%	4%	4%	4%	2%	3%

事故の型別



墜落・転落災害の推移



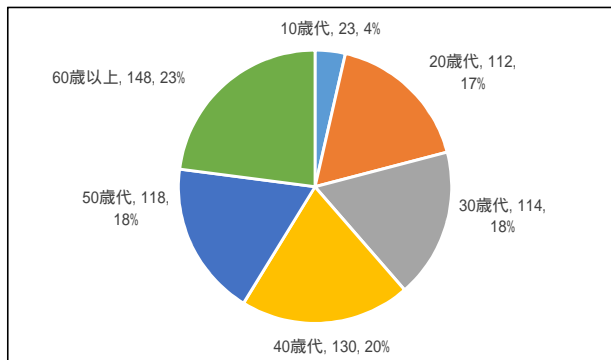
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
土木	40	31	38	28	41	33	22	33	32	32
建築	129	142	130	135	147	137	133	130	129	127
その他	47	64	51	48	56	52	60	61	59	50
合計	216	237	219	211	244	222	215	224	220	209

墜落・転落で4日以上死傷災害となった方は、209人と全体の1/3(32%)を占めており、前年より11名減少し過去10年で最少となったものの、毎年200名以上の方が被災している。
また、発生が多い5つの事故の型(墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ、転倒、飛来・落下、切れ・こすれ)で、71%を占めている。

年齢別

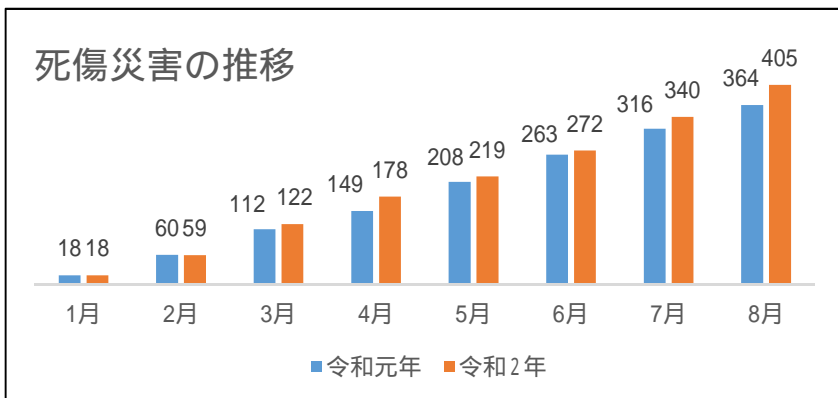
10歳代	23
20歳代	112
30歳代	114
40歳代	130
50歳代	118
60歳以上	148

60歳以上の高齢労働者の方が年代別では最多となり、次に40歳代の方となっている。
また、50歳以上の中高年労働者の方が41%を占めている。



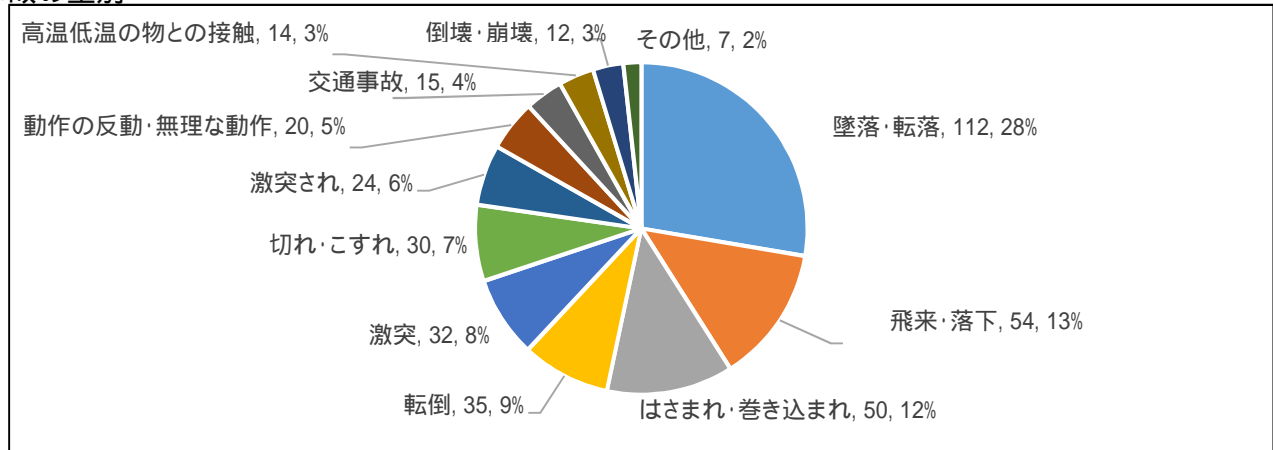
令和2年の休業4日以上死傷災害発生状況
災害発生状況の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
令和元年	18	60	112	149	208	263	316	364
令和2年	18	59	122	178	219	272	340	405



1月末は前年と同数であり、2月末には前年を下回ったものの、3月末には前年と同数となり、4月末以降は前年を常に上回っている。
6月末では対前年比で3%の増加であったものが、7月末では対前年比で8%の増加となり、8月末では11%も増加してしまい、増加傾向に歯止めがかかっていない。

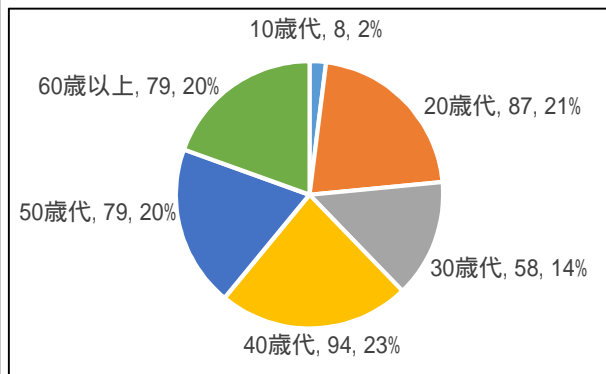
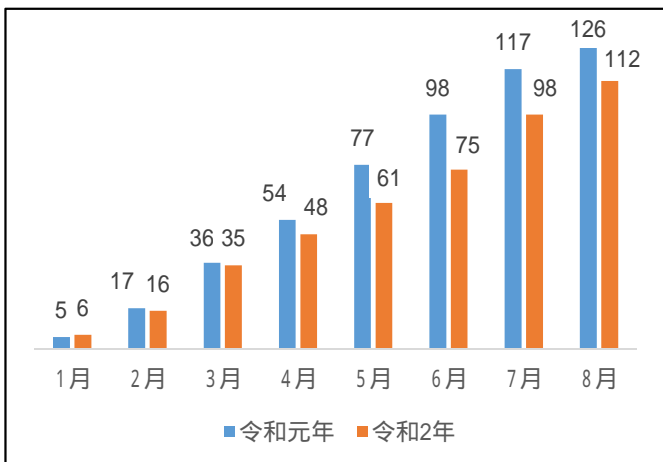
事故の型別



墜落・転落災害発生状況の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
令和元年	5	17	36	54	77	98	117	126
令和2年	6	16	35	48	61	75	98	112

10歳代	8
20歳代	87
30歳代	58
40歳代	94
50歳代	79
60歳以上	79



事故の型別では、上位4つの事故の型は変わっておらず、全体に占める割合も変わっていない。
前年と同様に墜落・転落災害が112人(28%)と最多を占めているが、1月末は前年を上回ったものの、以降は対前年比で常に減少しており、6月末には、対前年比で23%の減少となり、8月末では112人と前年比で11%減少している。
年齢別では、40歳代が94人と最多となり、50歳代、60歳以上の型が各20人となり、中高年齢者が被災する割合が高くなっている。

令和2年の愛知県内における建設業での死亡災害一覧

災害発生日時	事故の型	起因物	業種	年齢	職種	経験期間	災害発生状況・原因
1月24日 10:00	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク	土木事業	40代	一般土木作業員	25年	被災者と交通誘導員の2人が下水管清掃作業に従事し作業終了後、被災者がマンホールから地上へ出ようとしたところ、頭部を一般車両に轢かれ、マンホール内へ墜落した。
2月17日 14:00	おぼれ	開口部	その他の建設業	50代	管理者	29年	浄化槽の制御部品取り換え作業中に浄化のマンホールに墜落した。
2月17日 15:00	はさまれ、巻き込まれ	掘削用機械	建築工事業（木建以外）	40代	一般作業者	26年	杭打機のドリル先端を水で洗浄していたところ、旋回してきたドラグシヨベルのバケットと杭打機車体に頭部を挟まれた。
3月26日 11:50	崩壊、倒壊	地山、岩石	土木事業	30代	現場代理人	19年	道路改良工事において、矢板を打ち込んでいたが石にあたってため、矢板の打ち込みができなくなり、石を確認するため矢板周辺の土砂をドラグ・シヨベルで約3m掘削し、現場監督が写真撮影をするため掘削した穴に入ったところ周辺の土砂が崩れ落ち、生き埋めになった。
7月3日 10:42	崩壊、倒壊	その他の仮設物、建築物、構築物等	その他の建設業	40代	作業者	22年	地下変電所の変圧器搬出作業に使用するための門型仮設吊架台（電動チェーンブロックで吊り上げ、電動ローラーに載せて横引きする装置）の仮組工事において、組立て中の門型架台が倒壊し、合図や補助作業をしていた被災者が倒れてきた鋼材（架台の一部：5m、400kg）に腰部を強打され死亡したものの。
8月1日 9:45	はさまれ、巻き込まれ	トラック	建築工事業（木建以外）	30代	作業者	20年	道路の舗装作業中、ブラシ付き路面清掃車での清掃作業を行うにあたり、路面清掃車の右後方に別の工事車両があったため、いったん路面清掃車を左前方に寄せてから後進させたところ、後方で作業をしていた被災者が轢かれ死亡したものの。
8月5日 15:00	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	土木事業	40代	作業者	0年	道路掘削後の復旧のためアスファルトによる舗装作業中、ふらつき始めたためいったん日陰で休憩したものの、立てなくなるなど容態がさらに悪化したため病院に搬送された。熱中症と診断され、その翌日に死亡したものの。